

橋町の見どころ

まちの歴史シリーズ ⑧

橋町HP

<https://tachibana-net.jp>

歴史・史跡 クリック

発行：橋町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和5年2月1日
責任者：前田 信俊
事務局：橋公民館 22-3884

今回の案内は

釈迦寺区長 前田 信俊さん



ここは、昔から甕棺が出ていた所タイ。県道が広がるたびに、甕が出て、調査が繰り返されたらしか。

クイズ

右の3つの青銅器のうち

鉞（ヤリガンナ）はどれ？

注）ヤリガンナとは、現在の四角い台カンナが登場する以前に木材を削る時、使われていた重要な道具。



古代の豪族の拠点

しゃかじいせき 釈迦寺遺跡

（釈迦寺）

●どこに、あ〜と？

釈迦寺遺跡は国道498号と六角川が接する所★①にあ〜とです。当時、県道（今は国道）の改修に伴って見つかったとです。

●いつころの工事やった？

昭和6年頃、昭和46年、昭和62年の3度、道路が拡張されたらしか。

●調査されたのは？

昭和62年の工事では、発掘調査★②報告書が出されたけん、平面図★③は、裏につけとうです。昭和46年の記録は分らんやったです。

●どがんと、出てきたと？

弥生〜古墳時代にかけての色々な墓★④と古墳★⑤が出てきた。中に青銅製の剣・戈・鉞★

⑥（佐賀県重要文化財）などが見つかったバイ。

釈迦寺遺跡の場所（赤丸のところ）



ジャーン。今回は弥生人になって案内するね。



★印番号の解説

★①遺跡の場所

釈迦寺遺跡は六角川右岸（上流から見て右側）と、国道498が一番近づく所。写真は片白の中橋から釈迦寺遺跡を写したんだ。



★②調査箇所（62年発掘報告書より）

昭和6年頃の県道新設工事では、甕棺が30基以上出土したと伝わっているよ。



昭和46年の拡張工事では、甕棺が10基露出して、簡単な調査と取り出しがされたそうだけど、報告書は不明なんだ。近くには、林副遺跡や庄の前遺跡があるよ。

ここでは、**弥生時代のお墓と、古墳時代の円墳**が発見されたんだ。

★③遺構平面図（62年の発掘報告書より）



★④ 色々な墓

62年の調査では、カメ（土器）の墓75基、板石で囲われた墓2基、石蓋がある土の墓2基、土を掘った墓4基 計83基の墓が出てきたんだ。

これまでのカメ棺40基以上（表記事参照）を合わせると、**123基以上**見つかり、まだ上の方へも続いている（左図）ので、**とても大きな墓地**なんだ。

遺跡はこの辺り、ずっと上まで広がっているよ。

クイズの答え

一番上の小さいもの（カンナの穂先だよ）

★⑤古墳

円墳の大きさは15～16m。周囲の溝（周溝）にはふき石（古墳を石でおおったもの＝濃い緑部分）が残っていたんだ。鉄剣・刀など副葬され、6世紀頃のものだよ。

★⑥銅剣・銅戈・銅鉞（佐賀県重要文化財）

甕棺に権威を表す財宝が副葬されているのは珍しいんだよ。大陸からの渡来品で、この地域の弥生時代の首長クラスの墓と考えられているよ。ほかにも管玉や石包丁なども出土しているよ。



注）「釈迦寺遺跡は首長級の墓と考えられ、武雄・杵島地方におけるクニの成立を考える上で貴重な資料」と記載され、吉野ヶ里遺跡総括報告書にも載っています。

●弥生時代の橋住居の不思議

- 縄文時代から、人々の住まいは「**竪穴住居**」だったと考えられています。
- 右に復元されたものを紹介します。（大阪府立弥生文化博物館復元模型より）
- 竪穴床の形が、縄文時代は丸だったのが、弥生時代には四角になっていったとされます。橋町内では「隅丸四角」の竪穴住居が出ています。
- 弥生の住居跡は**、先に紹介した東福寺で尾根筋の高い所に短期間営まれたようですが、その他の遺跡（平地部にある）では、**ほとんど見つかりません**。弥生の墓地はたくさん見つかりました。
- 古墳時代になっても、釈迦寺遺跡をはじめ、**杵島山沿いにたくさん**の古墳が作られているのに、弥生の「橋町民」はどこに住んでいたのでしょうか？不思議ですね。



今回ご紹介した遺跡は『弥生・古墳時代』のものでした

時代区分	縄文時代	弥生時代	古墳時代		奈良時代		平安時代		鎌倉時代	
新・ふるさと歴史散歩記載項目	1 万年前に気候温暖、島国に。土器を作り煮炊きや貯蔵が可能に。	紀元前3C～3C。水稲栽培と弥生土器。環濠集落と小国家形成。大陸との交流も盛ん	3C 半ば～700 頃。古墳を造った時代。大和を中心とする統一国家（大和王権）の形成	任那日本府の滅亡と白村江の戦い後期は飛鳥時代へ	律令体制。710～794 国史編纂と風土記。武雄が杵島の郡として記載される。	条里制が敷かれ、土地の開墾と荘園化が始まる。国分寺・尼寺を建立、奈良麻呂の乱	藤原氏の権力増大、摂関政治を行う。荘園を貴族や寺社が支配、武士団を形成。	宮中警備・地方の治安に武士登用、支配の一旦を担う。平治の乱で清盛が朝廷の実権	鎌倉幕府成立。守護地頭による地方支配、橋氏の入部	元寇襲来と警備、恩賞要求と幕府の弱体化、少貳・大友の探題攻撃
主な市内遺跡 赤書は橋町	市場・下貝原・釈迦寺遺跡等の遺物。市内200 力所以上。阿舍利・椿原遺跡（山内）	小楠・みやこ遺跡の環濠、潮見川流域・釈迦寺遺跡、市内100 力所以上。	町内遺跡の鏡、銅剣。玉江遺跡 武雄平野を取り囲む山の周辺で300 基以上	玉島・潮見古墳、おつぼ山神籠石、東福寺・矢ノ浦・大蛇古の前方後円墳。線刻古墳も	肥前風土記と歌垣山、井手橋・林副（墨書土器） 武雄温泉 広福寺仏像	ドウザマ墓地立石と官道 小野原遺跡（条里制跡） 向野須恵器窯跡（北方）郡衙施設	長嶋庄成立 橋町条里制庄の前遺跡 おつぼ山経塚 武雄神社、黒尾神社、各地の経塚	長嶋庄は1170 代に 蓮華王院領 佐賀県最古の文書（実桙状） 歎喜寺薬師如来像と後藤氏	潮見城跡と館跡、潮見・山下・小野原・馬場・立岩等 の中世遺跡 源頼朝御教書	潮見川開削と河童誓文石、渋江・中村・中橋氏館跡 塚崎庄が長嶋庄から分離